



橋北中学校だより

令和6年10月2日(水)

第6号 文責:奥田

津市立橋北中学校

令和6年度「全国学力・学習状況調査」、「みえスタディ・チェック」結果報告

4月18日(木)に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」、4月19日(金)及び5月16日(木)に1,2年生を対象に実施された「みえスタディ・チェック」の結果及び分析を報告いたします。

| 1年 | 国語 | 数学 | 理科 |
|----|--------|--------|--------|
| 本校 | 大きく上回る | 大きく上回る | 大きく上回る |
| 県 | 66.1 | 66.7 | 55.3 |

| 2年 | 国語 | 数学 | 理科 |
|----|--------|--------|------|
| 本校 | 大きく上回る | 大きく上回る | 下回る |
| 県 | 51.1 | 51.4 | 42.8 |

| 3年 | 国語 | 数学 |
|----|--------|--------|
| 本校 | 大きく上回る | 大きく上回る |
| 県 | 57 | 53 |
| 国 | 68.1 | 52.5 |

※県の平均に対し、平均正答率が5ポイント以上の時は「大きく上回る」、5ポイント未満の時は「上回る」と表示しています。

【国語】

| | |
|----------|---|
| 強み | 基本的に県平均より高い。特に物語文の読解について差が大きい。 |
| 弱み 対策 | 語句の意味や敬語表現などの言語知識問題については県平均との差が小さい。 一度の授業のみの取り組みで終わらず、継続的に語彙を増やせるような取り組みをしていく。 |

【数学】

| | |
|----------|--|
| 強み | 与えられた条件(式や表)を適切に読み取って処理する問題がよくできている。 データの活用分野では適切に情報を読み取ることができる。 |
| 弱み 対策 | 割合の問題を正しく認識する力が弱い。 関数分野で具体的事象と数学をうまく結びつけて考えることが苦手。 データの活用では専門的な用語をもとにした問題の読み取りが弱い。 授業で扱う課題は計算などの反復練習の問題にかたよるのではなく、具体的事象と関連したものや思考を問うタイプの問題に取り組む。また、問題演習時も自分が解いて終わりではなく他者の考え方や解き方にも目を向けて多様な考え方に触れる機会をとる。 |

【理科】

| | |
|----|---|
| 強み | 実験の技能は身につけている。(2年生) 選択問題の無回答率が低い。 基礎的な知識はよく備わっている。(1年生) |
| 弱み | エネルギー分野、地学分野の問題が選択問題を含めての正答率が低く、無回答率が高い。(2年生) 結果の表やグラフを読み取り、考察する力が乏しい。 問題文から順序立てをして、正確に情報を整理する力が乏しい。 実験器具の操作の手順が曖昧。(1年生) |

| | |
|----|--|
| 対策 | 記述・説明問題などに取り組み、問題に慣れることと共に、「なぜその現象が起きるのか」、「なぜそのような実験結果になるのか」といったような、理科的な見方・考え方をもちて説明する課題を設定し、思考力や判断力、表現力を育みたい。そのような課題に取り組む中で、知識や技能を定着させ、さらに強みを伸ばしたい。 |
|----|--|

「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙」から

3年生における学調の「生徒質問紙」からみられる本校生徒の傾向については、「生活習慣や学習習慣」に係る項目において、「あてはまる」、「ややあてはまる」といった肯定的回答が全国平均を上回る、同程度と高い数値を示しています。特に、家庭学習に係る質問からは学習にかける時間が全国平均より長く、家庭学習が定着していることが傾向としてうかがえます。



昨年度本校の課題として取り上げた「自分には、よいところがありますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」といった「自己肯定感」、「自己有用感」につながる項目については、これまで全国平均、県平均を下回っていましたが、今年度はともに上回ることとなりました。しかしながら、周りの仲間と自分を比較し、なかなか自分に自信が持てないという状況は依然みられるのではないのでしょうか。引き続き、日頃の取組みをはじめ、係活動やボランティア活動などを通して、一人一人が持っている良さに気づいていけるよう取り組んでいくとともに、一生懸命取り組んでいる生徒たちに私たち教員がその目的や意義をきちんと伝え、そのがんばりに対して適切な声掛けを行っていく必要があると考えています。

その自己有用感を支える「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目において、今年度肯定的な回答は3.8ポイント上昇し93ポイントでした。高い値ではあるものの、全国・県の平均には及びませんでした。しかし、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という項目では肯定的な回答が7.7ポイント上昇しました。昨年度から職場体験学習や地域、学校でのボランティア活動が再開し、多くの生徒が意欲的な活動を行ってきたことやリーダー研修会で津市の脱炭素の取組みについて地域の企業と連携を図り活動を計画したことなど、今回調査対象であった3年生の積極的な姿を見ていて、上昇した結果を実感することができました。

今年度も、聴きあう関係を大切にしながら学び合う授業の充実を目指して日々教育活動を行っています。あわせて、地域活動への主体的に参加する機会を設けたり、自らが課題を設定し、その課題を解決するための探究的な学びを始めていたりしています。これら一つ一つの活動をとおして、生徒の自己肯定感、自己有用感を醸成するとともに、自らの可能性を発揮し、他者と協働しながら、未来の創り手となる力を育てていきたいと考えています。

